20歳のころ

【インタビューの経緯】

投資理念の「人生を賭けた起業家と、明るい未来を築く」という部分に深く興味を抱き、スタートアップ企業から幅広い企業を対象として起業家との絆を大切にしている所が経済学部の学生として魅力を感じ、インタビューさせていただきました。

【ご紹介】

SMBC ベンチャーキャピタル株式会社

投資営業第四部 副部長 中野哲治様

企画部 兼 投資企画部 次長 尾山隆一様

【会社概要】

会社名 SMBC ベンチャーキャピタル株式会社

代表者 代表取締役社長 落合昭

設立 2005年9月22日

事業内容 プライベート・エクイティ投資事業

資本金 500,000,000円

主要株主 三井住友銀行グループ

【インタビューの内容】

Q.学生時代の経験が活かした場面は？

尾山様

学生の時部活を本格的にやっていて、精神面でいきた場面はある。会話することが1番大切。部活をやっていて先輩方や、学科の仲間達とただ主張をするだけでなく、コミュニケーションを些細なことでも取って、会社の人と喋れるように努力していた。部活を通じてコミュニケーション能力が身についている。

中野様

学生時代はさまざまなことをしていた。音楽活動やボクシング、法律（宅建やビジネス実務法務）、アルバイト、バックパッカーなど。社会に出てから、引き出しの多さが活きていると感じる。多様な経験を積み、一つ一つに真剣に向き合うことで人生の引き出しを増やすことが大切。

自身が深みを持って経験したことは相手に対して迫力を持って話す事が出来、且つコミュニケーションの幅も広がる。また、経験の幅が広いと物事に動じなくなる。トラブルが起き

た時も落ち着いて対応できる。

Q.人との関わり方で大切にしていることは？

尾山様

嘘をつかない。

中野様

誠実であること。

より当事者意識を持って接する。

相手に成り代わって考えてみる。

Q.責任を持って仕事をするには、またそのきっかけは？

尾山様

自分のやれることをやり、周りとは協力することである。そして大学の部活の先輩から真っ直ぐ、真っ向勝負でないと通じないことを教えてもらったことが転換期である。

中野様

給料を頂いている限りはプロでなくてはいけない、給料以上の仕事をやるのが中野さんの根底にあるアイデンティティであり、それが当事者意識、仕事への熱量になっている。プロ意識が芽生え始めたきっかけとして、当時社会人4年目の上司が成功体験を積み重ねるのが上手い人だった。成功体験を積むことで自信が付き、仕事が楽しくなり、「どうやればもっと上手くいくか」と仕事に対する思考が非常に深くなった。

Q.人を成長させるための接し方とは？

尾山様

自分のやっていることを周りの人に手伝ってもらおう感覚で、その人に対して自分は何ができるのかと考える。また上司部下のような直線的な関係ではなく、巻き込んで関係を築いていく。

中野様

風通しのいい環境でないと下からの意見が上がってこなくなってしまうから、お互い本音を言えるような環境にする。そして小さな成功体験を積み重ねて、自信をつけさせる。だが謙虚さが無くなるのは良くないからそこをセーブしてあげて、マネジメントしてあげる。また何をしたいというところから逆算して物事を考えられる存在であることも大切だと思う。

Q. やりがいを感じた瞬間は？

尾山様

ベンチャー企業や人と一体化できた感覚のとき。また周りの人が喜んでくれたとき。

中野様

人から感謝されること。

Q. 20歳の頃の夢や目標は？

尾山様

大学では部活動に専念していた。大学の学生連盟での昇格にむけて仲間と励んでいた。長い目で見た夢という意味では、家庭が裕福ではなかったため、お金に困らない生活をしたいと思っていた。高校生の頃には起業したいとおもっていたこともあり、就職先に金融を選んだ。

中野様

当時はこれといった夢がなかった。色々なことを経験していたが、兎に角、目の前のことに一生懸命だった。

Q. 夢が定まったきっかけは？

中野様

就活をする中で、色々な業種の方々と接する機会を得たが、金融が自分が苦手な数字を扱う業務であり、資金を会社の経営に絡めて支援し業績をより良くする仕事が非常に魅力的に映った。きっかけとしては、恥ずかしい話が、自分が得意でない苦手な分野が格好良く見え、憧れで入行した。当初は非常に苦労したが、日々愚直に仕事と顧客に向き合う中で、天職であると感じるようになった。

Q. 前の目標と現在とで何か変化は？

尾山様

会社に入ってから、仕事をするなら楽しい仕事をしたいと思うようになった。自分がやったからこそこうなったという仕事が好きで楽しいと感じた。スタートアップ企業を見つけるのは、人の目利きで、どうなるかわからないし、自分たちの判断が大切で納得して投資をすることが必要。

「自分達と接したことで世界が変わるかもしれない」これを目標に日々仕事している。

中野様

当時、具体的な目標は無く、とにかく自分が面白いと思う事を一生懸命やっていた。現在は自身の仕事为社会にどうインパクトを与えるかという目線で仕事をしている。仕事が趣味という状態であり、大変なことも多いが、全く苦ではない。人生において仕事が占める時間は極めて大きく、自身にフィットした仕事を見つけられるかどうかが大切。

Q.能動的に動くコツは？

尾山様

能動的に動けなくて悩んでいることに対するアドバイスとしては、上手くいったらラッキーのように考え、ダメ元でやってみるのはいいかがか。小さなことから始めて、その積み重ねが重要だと思う。

中野様

人は一人で意思を強く持つことは、なかなか難しく、どんな環境に身を置くのが大切。ポジティブでアクティブなコミュニティに身を置くことで自然と変わってくる。そのために自主的に1歩踏み出す。また成長という観点では、少しだけ、自身にストレスがかかる環境に身を置くことがポイント。

Q.20歳のうちにすべきことは？

尾山様

とにかく勉強をするべき。興味あることを少しでもいいから勉強する習慣をつけた方がいい。

学生の頃ならできる勉強など、今考えると学生の頃の方が時間があった。やりたい事があるならした方がいい。

中野様

当時、勉強1 その他9といった割合だったが、5:5で勉強とその他をするべきだった。勉強だけでは勿体無い。勉強するにも、何がやりたいから勉強するという、目的から逆算して意志を持って勉強するべき。それを見つけるために、積極的に色々な経験をし、知見を広げる事が大事。

中野さんの一つの例として、当時東南アジアを旅する中で、カンボジアで貧困から這い上がるために必死で勉強をする子供達を見た際に、どれだけ日本が恵まれていて、自分が受身で勉強をしていたかを痛感し、初めて能動的に勉強しないといけないと思った。何事も話を聞くだけでは足りず、自分で体験する必要がある。

Q.伝えたいこと、アドバイスは？

尾山様

後悔のないように好きなようにやること、そして周りのアドバイスは聞くが、他人に決められる人生ではなく、自分で決める人生であること。

中野様

能動的に自分から行動すること。この自分の意志で1つ1つ行動することを今からやっている人とやってない人では4年後に大きな差になる。

【最後に】

インタビューの中で20歳の頃の夢は尾山様と中野様のどちらも特になく一生懸命目の前のことを頑張っていたとあるように、今定まった夢がないとしても、時間がある今の学生のうちに、さまざまな経験を積み、夢を見つけるために自ら能動的に努力し行動することが大切だと感じました。

アルバイトやボランティア、海外への旅行など身近なことから自分で体験することで夢につながるがあると知りました。

インタビューの中で1番印象的だったのは「自分が一度経験したことは人に対して寛容になれるため、トラブルが起きた時も落ち着いて対応できる。」という言葉です。自分が経験しておくことが、自らの夢や将来につながるのはもちろん、他人に対しても寛大にいられ、また広い視野を持てるということは今後社会に出た際に役に立つと強く感じました。

私たちも大学生活の中でゼミ活動を始め、さまざまなことに全力で取り組み、尾山様や中野様のようにやりがいを感じる自分がやりたいと思う仕事をできるように努力していきたいです。